

7. ワークライフバランスについて

(1) 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度

問 17. 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度についておたずねします。あなたの希望に最も近いものをこの中から選んでください。(○印は1つ)

※「地域・個人の生活」とは地域活動・学習・趣味・付き合いなどを指しています。

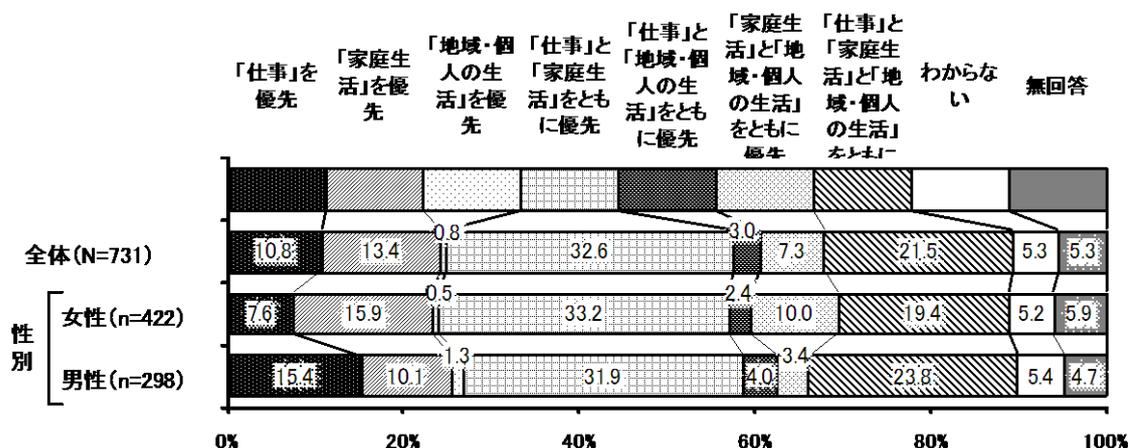
また、あなたの現実(現状)に最も近いものを上記の1から8までの選択肢から選んでください。

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の理想をたずねたところ、「仕事」と「家庭生活」をともに優先(32.6%)の割合が最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先(21.5%)、「家庭生活」を優先(13.4%)、「仕事」を優先(10.8%)の順となっている。

性別にみると、男女とも「仕事」と「家庭生活」をともに優先が3割程度で最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先が2割程度となっており、全体とほぼ同様の傾向を示しているが、「仕事」を優先は男性の方が、「家庭生活」を優先と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先は女性の方が、割合が高くなっている。

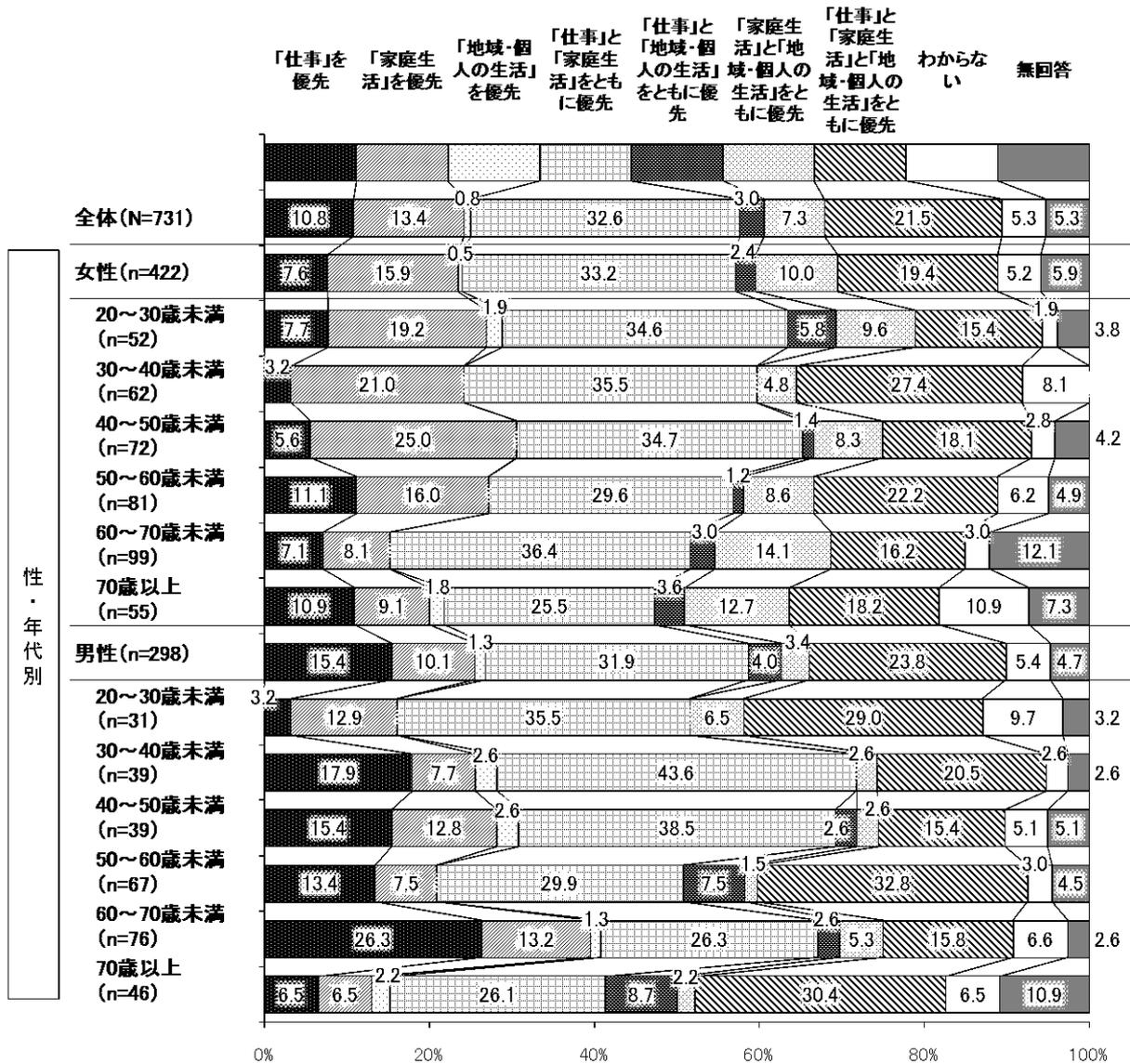
【理想】

■ 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度【理想】(全体・性別) ■



性・年代別にみると、女性は20～60歳未満で「家庭生活」を優先が2割程度を占めているのに対して、60歳以上では1割に満たず、逆に「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先では60歳以上が1割以上と比較的高くなっている。一方男性では、「仕事」を優先と回答した人の割合が60～70歳以上で26.3%と他の年代を大きく上回っている。

■ 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度【理想】（性・年代別） ■

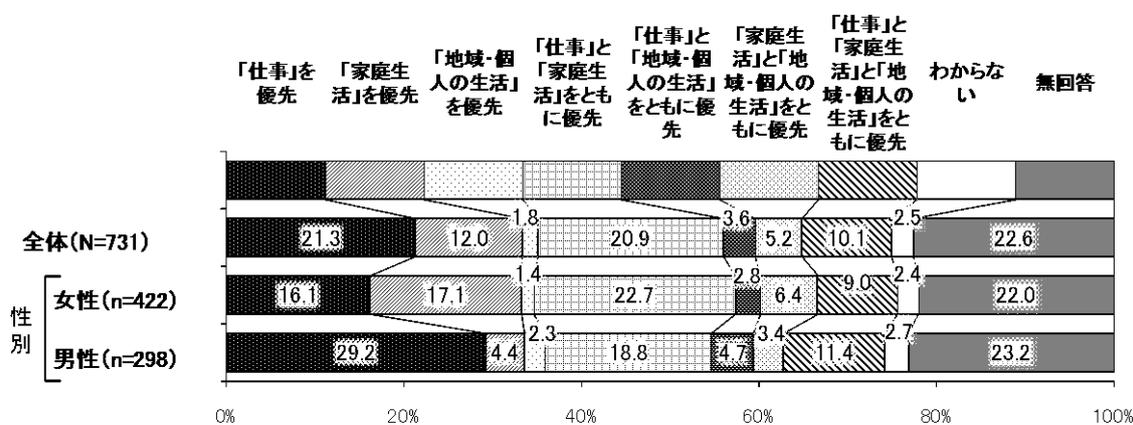


「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の現実を尋ねたところ、「仕事」を優先（21.3%）の割合が最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」とともに優先（20.9%）、「家庭生活」を優先（12.0%）、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先（10.1%）の順となっている。

性別にみると女性は「仕事」と「家庭生活」とともに優先（22.7%）の割合が最も高く、次いで「家庭生活」を優先（17.1%）、「仕事」を優先（16.1%）の順となっている。一方で男性は「仕事」を優先（29.2%）の割合が最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」とともに優先（18.8%）、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先（11.4%）の順となっており、女性は家庭生活、男性は仕事を優先する傾向がみられる。

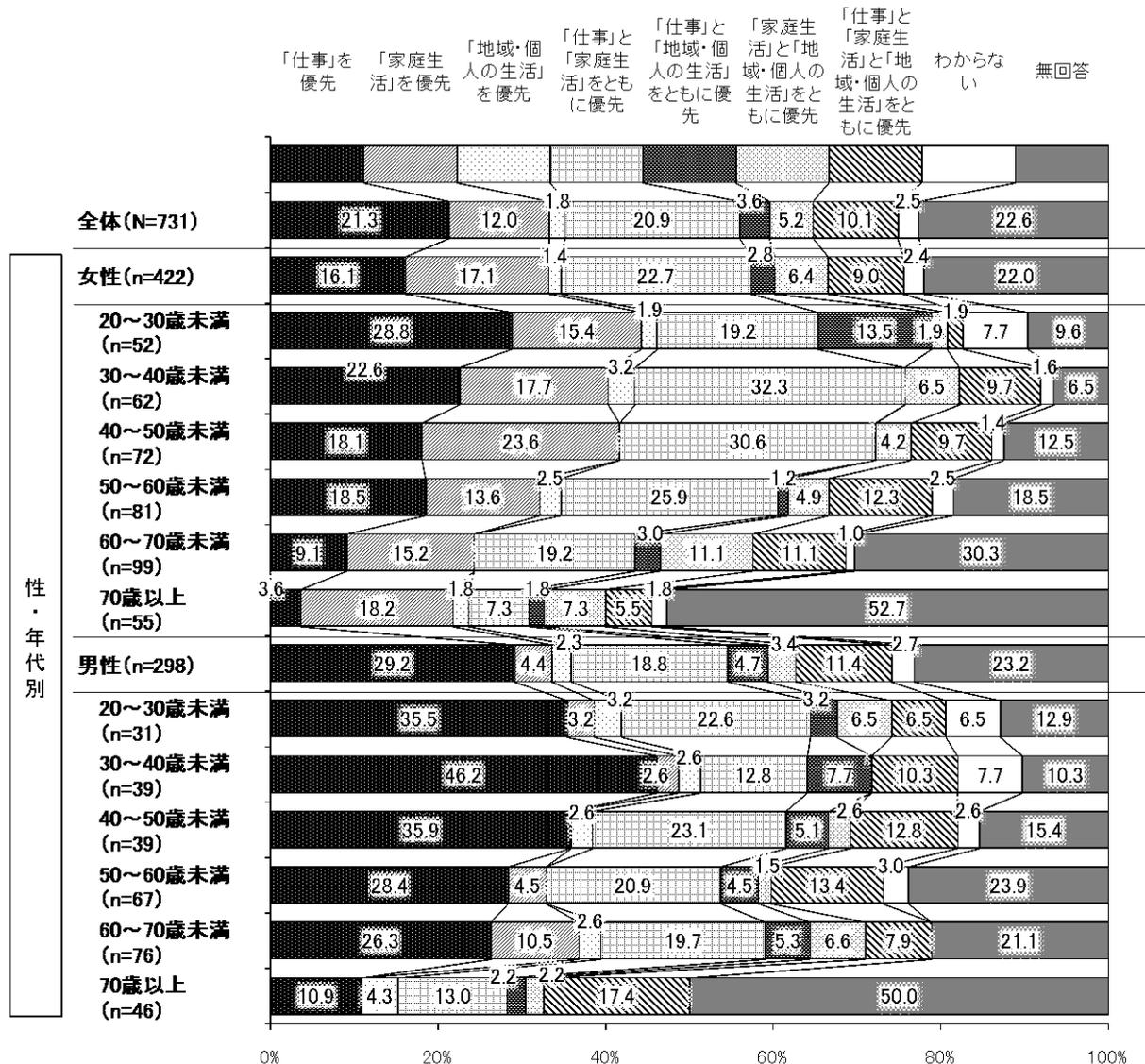
【現実】

■ 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度【現実】（全体・性別） ■



性・年代別にみると、「仕事」を優先」と回答した人は、男女とも概ね年代が低くなるほど割合が高くなる傾向がみられる。また女性の30～60歳未満では「仕事」と「家庭生活」とともに優先」と回答した人の割合が3割前後と高くなっている。

■ 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度【現実】（性・年代別） ■

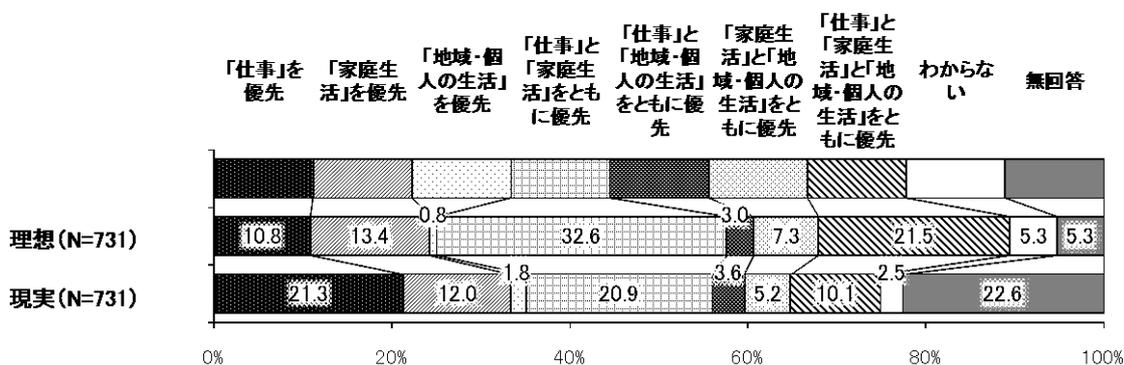


理想と現実を比較すると、理想が現実を大きく上回っている項目は、「仕事」と「家庭生活」とともに優先」と「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先」の2つとなっており、逆に「仕事」を優先」では現実が理想を大きく上回っていることから、「家庭生活」や「地域生活・個人の生活」などを両立、もしくは優先したいという理想を持っていても、現実には仕事を優先せざるを得ない状況が考えられる。

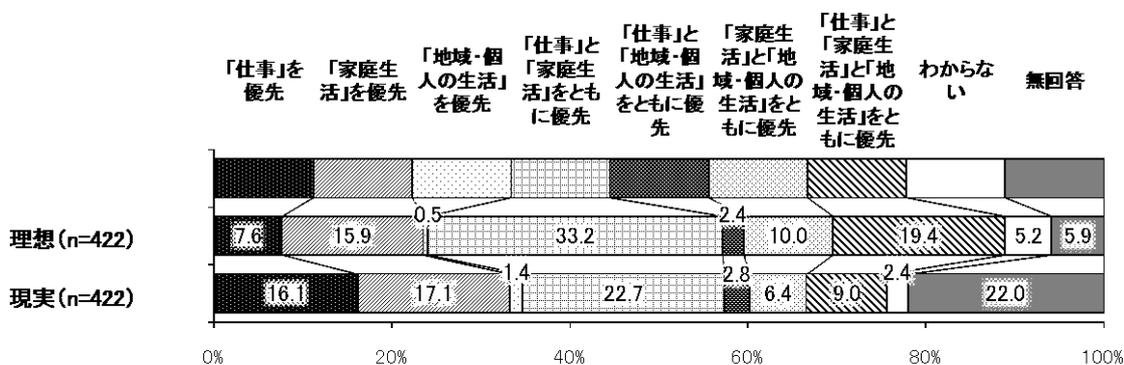
性別にみると、男女とも全体と同様の傾向がみられるが、特に男性では現実には「仕事」を優先」の割合が29.2%と高くなっている。

【理想と現実の比較】

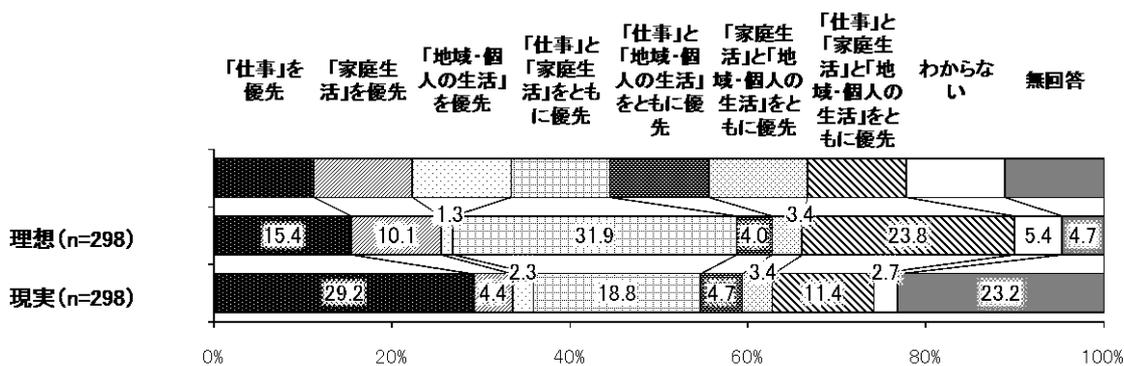
■ 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度【理想と現実の比較】(全体) ■



■ 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度【理想と現実の比較】(女性) ■



■ 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度【理想と現実の比較】(男性) ■



理想別に現実をみると、概ね理想の内容が、現実でも最も高い割合を示しており、理想と現実のギャップを感じていない人が多いとも考えられるが、「仕事」を優先することを理想としている人では、現実には「仕事」と「家庭生活」をともに優先が 35.9%と最も高くなっており、ギャップが大きい傾向がみられる。

■ 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度【理想別にみた現実】 ■

	サンプル数	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	わからない	無回答	
全体	731	10.8	13.4	0.8	32.6	3.0	7.3	21.5	5.3	5.3	
理想別にみた現実別	「仕事」を優先	156	25.6	12.8	1.3	35.9	3.8	1.3	14.7	3.2	1.3
	「家庭生活」を優先	88	8.0	40.9	-	21.6	-	10.2	12.5	5.7	1.1
	「地域・個人の生活」を優先	13	7.7	23.1	23.1	-	-	23.1	15.4	7.7	-
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	153	3.3	13.7	-	52.9	-	3.3	23.5	-	3.3
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	26	7.7	3.8	-	11.5	30.8	19.2	26.9	-	-
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	38	7.9	7.9	-	13.2	-	42.1	23.7	2.6	2.6
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	74	4.1	4.1	1.4	23.0	2.7	2.7	58.1	2.7	1.4
	わからない	18	5.6	5.6	-	33.3	-	-	11.1	44.4	-
	無回答	165	10.3	6.1	-	30.9	3.6	6.7	14.5	10.3	17.6

(単位:%)